

河 北 新 報

2025年（令和7年）5月27日（火）

“仙台圏の不動産動向 解説”

仙台圏の不動産動向解説

専門家ら企業向けにセミナー

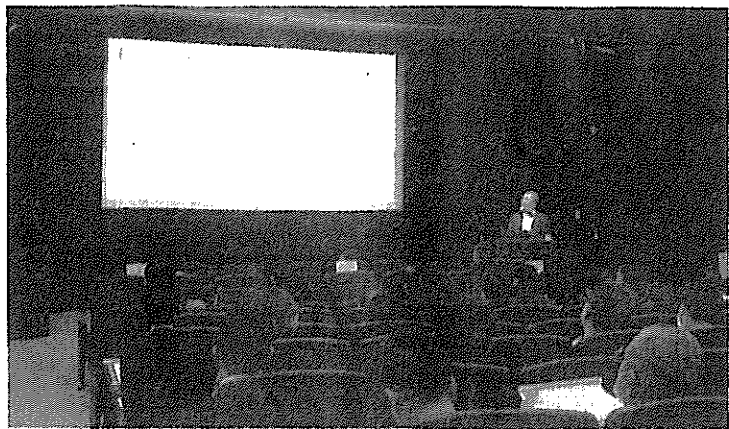
不動産や金融の専門家らで構成するアセットブレインズ仙台ネットワーク（仙台市）は、仙台圏の不動産市場動向について考える会員企業向けのセミナーを仙台市青葉区のせんだいメディアテークで開いた。

不動産調査会社シーカーズプランニング（仙台市）の佐々木篤代表は、2024年の居住用不動産の動向を解説。一戸建て市場は新築建売住宅の新規着工数が前年比約720戸減の2408戸と約10年ぶりの大幅

減少となった一方、中古住宅の成約数は増加していると説明した。

賃貸住宅の新規着工数は4年連続で増加し、築浅の物件や利便性の高いエリアで賃料の上昇傾向が続いていると分析。「エリアや築年数による二極化がさらに進行している」と指摘した。ネットワークの佐々木正之事務局長は、仙台圏の24年の事業用不動産取引状況の調査結果を説明した。件数、金額ともに前年を上回り、首都圏の物件不足を背

仙台圏の不動産市場動向の説明があったセミナー



景に首都圏の企業や投資家による購入が活発だったと評価した。

セミナーは23日にあり、オンライン視聴を含め会員企業の関係者ら約160人が聴講した。